

令和5年度 第1回 甲賀市環境審議会 議事摘録

- 開催日時** 令和5年（2023年）5月23日（火）
10時00分～11時50分
- 開催場所** 甲賀市役所 別館会議室101
- 出席委員（敬称略）** 7名
〔会長〕 竺文彦
〔委員〕 中島仁史、金子利佳、石山利則、村田吉美、青木純一、高橋美香、（欠席：大西智子）
- 事務局（敬称略）** 9名
〔市民環境部〕 保井純子、前田三嗣
〔環境未来都市推進室〕 相原功志、西野久俊、赤松さくら、藤井太郎
〔生活環境課〕 福田悟司、井口恵美、田原正史
- 傍聴** なし
- 会議次第**
1. 市民憲章唱和
 2. あいさつ
 3. 審議事項
 - （1）一般廃棄物処理基本計画について
 - （2）甲賀市地球温暖化対策実行計画について
- 配布資料**
- ・資料1 第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画（中間見直し）策定方針
 - ・資料2 甲賀市地球温暖化対策実行計画（たたき台）
 - ・資料3 施策体系の組み換えについて
 - ・資料4 環境審議会のスケジュール

会議内容

1. 市民憲章唱和

2. 会長あいさつ

今年度は第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画、甲賀市地球温暖化対策実行計画を作っていくということをお願いする。

3. 自己紹介（委員・事務局）

4. 審議事項（会長進行）

会長＞ 審議事項1の第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画について、説明をお願いしたい。

事務局＞ 審議事項の前に、まず今後のスケジュールについてご説明させていただきたいがよろしいか。

会長＞ お願いします。

事務局＞ （資料4・スケジュール、資料1・第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画（中間見直し）策定方針について説明）

会長＞ スケジュールについて何かあれば出してもらいたい。特になければベースは説明のとおりとしておき、適宜必要な変更を加えていくということで良いのではないかと思う。

第3次甲賀市一般廃棄物処理基本計画については中間見直しなので今までのベースに則ってやっていくことになるが、意見や感想はないか。

委員＞ 生ごみの堆肥化はリサイクルということで良いと思うが、単純焼却を未だにやっていることについて触れていない。また、現在修理して長持ちさせるということをしているが、焼却施設の場所を変えたら環境アセスメントに10～20年かかる。前回も言ったがそのことについて全く触れていない。やり方をどうするかは別として、全くの単純焼却をしていることについて考えていかないと間に合わなくなるのではないか。

会長＞ そのとおりで、焼却施設は温暖化促進施設とも言える。温暖化防止と言いつつながらごみを燃やすのはどうかと思う。しかし、どうしてもごみは出てしまうので、処理で出るエネルギーを温暖化にもっていくのではなく、発電して他の燃料の使用を減らしていくという方向にもっていかなくてはいけない。滋賀県はごみの焼却エネルギーについて遅れている。発電という視点で考えないといけない時期にきている。大津市は発電をようやく始めた。しかし、大津市は発電するだけでごみ処理方法は変えていない。発電すると市は儲かるので、どんどんごみを燃やそうという考え方もあるが、なぜごみを減量しないといけないかを考えないといけない。プラスチックもリサイクルとは言っているが、実質としてはかなり焼却している。他に持って行って燃やすのなら、市で燃やして発電した方がいい。

単純に焼却するより発電はする方が良いので、ぜひ考えてほしい。市ももちろん

考えていると思うが、新しい施設は発電しないと補助金が出ない。

そうなると、ごみの収集をどうするかという話も出てくるので、計画の見直しもそういうところを考えながら進めていくことが必要である。また、生ごみの8～9割が水なので燃やすのは効率が良くない。大津市で計算した場合、1機で5千万円ほど売電量が下がるので、1億円くらい損している計算になる。甲賀市は生ごみ堆肥化をしっかりとしているの、その辺りのことも考えながら中間見直しをやっていく。

事務局> 現在は炉の大規模改修を行っている。そのため、発電施設に変えるといった改修はしていない。炉の大規模改修で15年程は乗り切ろうという計画だか、環境アセスメントは時間を要するため用地の選定も含めて検討に入る時期だと考えている。また広域処理しているので甲賀市だけでなく、湖南市も含め次のことを考えている。次の施設について中間見直しでどこまで記載できるかはわからないが、十分考慮していく必要があると考えている。

委員> 発電や熱利用だけでなく、例えば炭素と分離させて必要なものを抽出するなど、5～10年すると様々な技術も出てくると思うので、そういった新しい技術もぜひ検討してほしい。

事務局> 焼却以外の技術も出てきているので、ぜひ検討していきたい。

会長> 2番の議題の地球温暖化対策実行計画について説明をお願いしたい。

事務局> (資料2、3について説明)

会長> 地球温暖化対策実行計画についてご意見があれば出していただきたい。

委員> 69ページの「地域の脱炭素のための取り組み」という部分で地域共生以降の字が切れている。

76ページの図について水の循環とは思えない。なぜ水力発電をしたら水の循環になるか。

81ページの関連する指標等の「挑戦1」の続きに再生可能エネルギーなり、エネルギーシフトなり言葉を入れてほしい。

全体的な部分として、事務事業編と区域施策編にもう少し整合性を持たせてはどうか。例えば131ページのワークライフバランスは、事務事業編にはあるが区域施策編にはない。水の使用に関することも事務事業編のみに記載がある。

また、再生可能エネルギーの導入は誰が主体的にするのか。太陽光は市や各自がするとして、水力発電は誰がするのか。それから山林におけるCO₂の吸収量が同じ数値で推移しているが、伐採などで更新を進めるほど吸収量が上がってくるので、その辺りも考慮していただきたい。

会長> 小水力の事業主体はどこかというのは市が計画を持ってなければ、はっきりと書けないと思う。

委員> そこが問題で、市と民間のどちらが取り組むか話しが進まないのではと心配である。

会長> この計画にそこまで記載するのは難しいのではないかと思います。

事務局> 事務事業編と区域施策編の整合性については対照表を作成し洗い直しを行う。

再生可能エネルギーに限らず、Z E HやZ E Bの推進していくことになるが、市は導入促進をしていくことになる。再生可能エネルギーはまちづくりに資する部分もあり、魅力をもってやってもらえる事業者や地域に根差してやってもらえる方に市が働きかけをしながら進めていく。あるいは他の市町のように特別の目的会社を設立して進めるかもしれないが、現時点では計画にはっきりとは記載できない。まずは再エネポテンシャルから今後の方向性を示していきたいと考えている。

委員> 林業についてはどうか。

事務局> 甲賀市森林整備計画を踏まえて検討していきたい。

県の地球温暖化対策実行計画では、森林による吸収量が減少していくが、本市の計画では森林の管理を進めながら吸収量を維持はしていこうと考えている。今後、林業振興課や関係者とも協議しながら検討を進めていく。

委員> 木はある樹齢になるとCO₂を吸収できなくなるので、更新していかないといけないので、少しでも検討を進めていってほしい。

事務局> 木の利用や更新、適正管理の推進も含めてしっかり協議していく。

委員> ロゴマークを考えていくということだが、滋賀県はMLG sを地産地消のロゴマークとして作成し、使用を進めている。甲賀市のお茶に使用するなどMLG sの活用を進めてはどうか。

キービジュアルが甲賀市に見えない。もう少し甲賀市らしくしてもらえたら良いのではないかと思う。モデル地域が水力発電を行うのではないかとは思いますが、その地域を決めていけば、具体的にキービジュアルを入れることができるのではないか。

Z E Hについてハウスメーカーは、かなり力を入れており8～9割はZ E Hで建てている。ハウスメーカーより地元工務店の建築数のほうが多いので、市が工務店にどうアプローチし育てていくかが重要になる。

また、企業のカーボンニュートラルに向けた取り組みは電気に関することばかり。市が勉強会やお互いの情報交換の場を作ると取り組みの進め方や人材育成に繋がるのではないか。大手企業はかなり取り組んでいるので、進捗状況により切り分ける必要はあるだろう。

事務局> ロゴマークについては2つ目的がある。公募することで甲賀市の未来について考えてもらう機会となる。または2050年まで使っていくマークとして確立し、名刺や地球温暖化対策実行計画等にも活用したいと考えている。MLG sなどの他もマークもしっかり活用していけたらと考えている。

キービジュアルについて、脱炭素先行地域への応募を考えているので、事業主体、事業内容、具体的な地域を決めていく必要がある。小水力については実施可能性調査と並行しながら、土地改良区などと話をしながら進めていきたい。

また、地元工務店がZ E H住宅を建てるまでに持っていき、個人事業主に脱炭素を意識してもらうことが課題だと思っている。市はZ E Hの建築法など技術的なことは専門外なので、知識やアイデアを補うため甲賀市内外からのアドバイザーの就

任を考えている。脱炭素に対する考え方は、業種によって温度差があるのでアプローチのお知恵をいただきたい。企業の勉強会についても、まず地域企業に意見をもらえる場を今後作っていったらと考えている。

会長> 企業勉強会や市民の意見収集の場について、大津には大津環境フォーラムというところがあり、市民向けの省エネパンフレットの作成・配布をしている。大津市に似ていてもかまわないので、市民グループや市の仕事を補助するグループの結成は実現可能性があるのも強く打ち出していても良いのではないかな。

75ページのキービジュアルについてだが、所々に忍者らしきものがあるが、これは何かと言われませんか。

またソーラーシェアリングの描写があるが、水田の上に太陽光発電は設置しないのではないかな。植物や駐車場の上という形で描いてはどうか。

水力発電を右上の山の上のほうに描き、しっかり小水力発電とわかるように描いてはどうか。

バイオマス発電のメタン発電装置はもう少し背が低くて屋根があるので、縦長すぎる。色についても水色はバイオマス発電のイメージではない。

また、右下のe v T O Lがそう見えない。プロペラがあって空を飛ぶようなイメージがほしい。大した問題ではないかもしれないが、後々クレームがあるかもしれないので見直しを検討してほしい。

事務局> キービジュアルはデジタル画像で描きあがっているものなので、細かい修正ができない。計画が固まっていない中で未来図を描いている。施策検討をしたうえで、全面差し替えはあり得るが現在の画を直すことは難しい。

会長> 検討課題で結構です。

島委員> 115ページ③のまちづくり協議会とは、自治振興会のことか。

事務局> 現在、自治振興会の在り方検討を進めており、そういった文言が出てきている。計画策定時点までには検討が進んでいると思われるので、それに合わせて見直しを行う。

委員> メタンガスに期待しており、生ごみの活用が進むことを願っている。また、デンマークのコペンハーゲンで生ごみ焼却施設の斜面がスキー場になっているドキュメント映画を見て素敵だと感じた。ごみ処理施設をレジャー施設に変え、経済効果もある。そういったことも視野に入れてもらえると嬉しい。

委員> ごみがリサイクルされ最終的に資源として生まれ変わりお金にもなるというのを遊び感覚で学べる施設があちこちにあれば、ごみ捨てに関する意識が変わっていくと思う。小さな頃からの教育が重要である。

甲賀市のユーチューバーにごみの番組や環境審議会に関する動画を作ってもらえると子どもも見る。著名人とごみ拾いするというような番組を作っても面白い。楽しい、わくわくする活動でないと誰もしない。レジャー施設を作るお金を得るために、ごみのこういった活動をしようという風にもっていかないといけない。

委員> 環境アセスメントの観点から難しいだろうが、まちのど真ん中にごみ焼却場を作ったらきれいにしようという意識が生まれる。ごみの量も発電がどう使われて

いるかも知るようになる。

委員＞ 市民が賛同できるようなシステムを作らないといけない。ごみの再生プロジェクトを企業と市民で勉強会をすれば良い。

会長＞ 100億円ほどかかるので、市ではなく企業が発電所をつくり、そこに廃棄物を燃料として提供するという方向で考えた方が良い。法的に色々な問題があるからすぐにはできないと思うが、企業を競争させてどこかが発電所を作ることは不可能ではないと思う。発電所の迷惑代として地域にお金を払うのではなく、電力会社に電気を売らず使ったほうが安いので、地域の電気代を半額にするとすると、発電所に来てほしいという地域も出てくるはずだ。このように物事の考え方を考えていった方が良くと思うが、現実には難しい。甲賀市長は取り組んでもらえる可能性があると思うので伝えてほしい。

委員＞ 今後、ごみを資源に変える取り組みをトレーラーホテルで進めようと思っている。災害時の電力化を確保する蓄電池も補助金も調べ進めていきたい。トレーラーホテルが災害防災協定を組ませてもらったので、災害基地として市内各地に同じようなホテルを作っていきたいと思っている。

会長＞ 他にご意見はないか。一週間程度の近い内であれば事務局に検討してもらえるとと思うので、この他にも何か意見があればFAX等で連絡していただきたい。

○閉会あいさつ（職務代理者）

委員＞ 地球温暖化対策実行計画のたたき台については、施策体系も組み替えられ甲賀市らしさが出てきた。本日の意見も反映し、実効性の高い計画にしてもらうようお願いする。